

「イエスとともに食卓を囲む」

ヨハネの福音書 21 章 1～14 節

私たちのチャペルでの今年の話題の一つは「ともに食べる」ことです。その一つは「愛餐」です。愛餐は単なる昼食サービスではありません。ともに食卓を囲むこと自体が教会の姿そのものなのです。「となりの食堂」や「おさんぽの会」等の働きは、イエス様の「あなたがたの手で食べ物をあげなさい」(ルカ 9:13)との言葉を思い起こさせます。人々を帰らせようとする弟子たちに対し、イエス様は私たちを用いて人々を食べる交わりに招かれます。



① イエスキリストは私たちを食卓に招かれる

“イエスは彼らに言われた。「さあ、朝の食事をしなさい。」…イエスは来てパンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。” ヨハ 21:12-13

“過越の子羊が屠られる、種なしパンの祭りの日が来た。イエスは、「過越の食事ができるように、行って用意をしなさい」と言って、ペテロとヨハネを遣わされた。”

ルカ 22:7-

② 私たちはともに食事を分かち合う

“日が傾き始めたので、十二人はみもとに来て言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、彼らは周りの村や里に行き、宿をとり、何か食べることができるでしょう。…」すると、イエスは彼らに言われた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」彼らは言った。「私たちには五つのパンと二匹の魚しかありません。…」というのは男だけでおよそ五千人もいたからである。…そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、それらのゆえに神をほめたたえてそれを裂き、群衆に配るように弟子たちにお与えになった。人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、十二かごであった。” ルカ 9:12-

③ イエスキリストが食卓の中心におられる

“人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言います。” ルカ 7:34

“見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。” 黙示録 3:20

<考えてみましょう>

・教会は神の家族です。家族にとって食卓を囲む大切さについて話し合ってみましょう。